

4. RI angio が診断に有用であった修正大血管転位症の一例

阿部 正宏 宮下 岳夫 矢田 純一
 穂坂 英明 小林 泰彦 永井 義一
 山沢 埼宏 伊吹山千晴 (東医大・内)
 村山 弘泰 (同・放)

修正大血管転位症は、大きな合併奇型のない場合は、正常の心臓と同様の血行動態を示すために、診断困難な場合が多いと考えられる。今回われわれは合併奇型のない修正大血管転位症を経験し、その診断上 RI angiography が以下の点で有用であった。1) LAO 45° は上大静脈からの一連の循環動態を検索でき、内臓心房位の決定に有用である。2) 心室ループの決定には、RAO 30° の心室形態が応用できる。3) 大血管の位置関係は、RAO, LAO の2方向で十分に把握される。以上のことにより RI angiography は、縦隔内血管の把握が容易であり、Non-invasive であることから、修正大血管転位症のみならず、他の大血管異常を持つ疾患群に対しても、有用な補助診断になりうると考えられる。

5. $^{99m}\text{Tc-DTPA}$ エロゾル吸入法による放射線肺障害の評価

橋本 稔介 尾川 浩一 高木八重子
 久保 敦司 橋本 省三 (慶大・放)
 石坂 彰敏 金沢 実 (同・内)

目的： $^{99m}\text{Tc-DTPA}$ エロゾル吸入法を用いて、肺への放射線照射による肺上皮細胞障害を検出することを目的とした。

対象、方法： 線維化性肺胞炎17例、サルコイドーシス10例、胸部に放射線照射を受けた7例を対象とし、 $^{99m}\text{Tc-DTPA}$ 溶液 60 mCi を超音波ネブライザーにてエロゾル化し、5分間放置した後安静換気で吸入させた。

結果： 1) $^{99m}\text{Tc-DTPA}$ エロゾル吸入法を用いて、肺への放射線照射による肺胞上皮細胞障害を検出できた。

2) 全肺照射された1例では、動脈血ガス、胸部X線所見の悪化に先立って、肺胞上皮細胞障害を検出し得た。

6. 核医学的検査が診断に有効であった Pulmonary Teleangiectasia の2症例

鈴木 豊 (東海大・放)

先天性および肝硬変に由来すると思われるそれぞれ1例ずつの pulmonary Teleangiectasia の症例において、 $^{99m}\text{Tc-MAA}$ による心 RI アンギオグラフィ、全身スキャンを用いて右左短絡率の推定を試みた。RI アンギオからは右室、左室それぞれの時間放射能曲線を求め、左室時間放射能曲線下の面積と右室のそれとの比より右左短絡率を求めた。全身スキャンのデータは、コンピュータにより、全身のカウント、肺のカウントを求め、全身のカウントから肺のカウントを引算した値に対する全身カウントの比から求めた。RI によって得られた右左短絡率は、心臓カテーテル検査結果から求めたそれとよく一致した。肺動静脈瘻の際の右左短絡率を推定する方法として本法は、臨床的価値が高いと言える。

7. 検診で発見された縦隔異常影に対する画像診断

—RI 検査を中心に—

山岸 嘉彦 渡部 英之 佐藤 雅史
 斎田 史典 篠原 義智 今村 純
 鍛 喜美恵 (日医大第二病院・放)

職場、学校および地域住民の検診で胸部単純X線写真上、縦隔に異常影を指摘され、来科した患者27名につき、シンチグラフィーを中心とした画像診断につき検討した。

腫瘍は6例あり、うち5例に手術が行われた。組織診は bronchogenic cyst 2例、teratoma、neurinoma および thymic cyst 各1例であった。

血管系異常は11例あり、大動脈瘤は6例でうち2例に手術が行われた。その他右側大動脈弓3例、蛇行および PA 拡大が各1例であった。

サルコイドージスは6例に認められた。

RI 検査は27例中19例に行われ、腫瘍には Ga シンチ、血管性病変には RI angio とプールシンチ、またサルコイドージスには Ga シンチが有用であった。